

# 豊田ラグビースクール

豊田ラグビースクール

## 創立

昭和52年（1977年）5月8日

## スポーツ少年団加入

平成元年（1989年）

## 歴代代議員

- 甲谷昭一  
（1989年～1990年）
- 末松邦夫  
（1991年～1997年）
- 齊藤孝和  
（1998年）
- 春藤尚弘  
（1999年～2006年）
- 大前功雄  
（2007年～2008年）
- 水野博之  
（2009年～2018年）
- 末松直人  
（2019年～2020年）
- 小笠原誠一  
（2021年～現在）



第21回愛知県中学生新人戦優勝（瑞穂ラグビー場）

## 創立・沿革

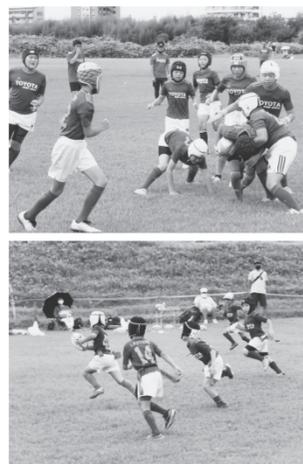
「豊田ラグビースクール」の創立は、今から44年前のこと。当時愛知県には、名古屋ラグビースクール、岡崎ラグビースクール、豊橋ラグビースクールだけで、社会人ラグビーの“雄”トヨタ自動車の本拠地である豊田市にはありませんでした。そこでラグビーの底辺の拡大と、より多くの人々にラグビーの素晴らしさを理解してもらうことを目的として真野克宏氏（初代校長）が中心になって準備を進め、豊田市教育委員に相談し、市のスポーツ教室の一環として、1977年5月8日に発足しました。

## 創立から現在まで

トヨタ自動車ラグビー部OBによりスクールを立ち上げる。設立当初は、指導員5名、生徒21名、練習場所は、白浜公園で行っていた。1980年代後半にはラグビーブームと共に生徒数は一時150名程に達したが、2000年代かけて生徒数が減少。生徒数50名前後で活動を続けてきた。近年ではトヨタ自動車ヴェルブリッツの協力も得ながら普及活動を実施してきた結果、生徒数は徐々に増え、2015年、2019年のラグビーワールドカップでの日本代表の大活躍によるラグビー人気の高まりもあり生徒数が急増。現在は練習場所を川田公園、トヨタスポーツセンターで行っており、指導者数30名、生徒数220名で活動している。

## 目的

ラグビーを通じて、子どもたちが体力面、精神面を向上させ、明るく元気に育つこと。また、友達を多く持ち、社会性のある子どもに育つことを目指して活動に取り組んでいます。ラグビースポーツ少年団の当初のモットーとして、「挨拶をしよう」「時間を守ろう」「身の回りをきれいにしよう」「健康に注意しよう」「友達をつくろう」の5点を挙げ、活動してきました。現在では、以下の3点のモットーを掲げて活動しています。



川田公園での練習



令和2年12月6日 豊田スタジアム東交差点にて交通安全立証活動

現在のラグビースクールのモットー

- ① あいさつができ、元気に走れるようになり
- ② 大人の人の話をしっかり聞けるようになり
- ③ 多くの友達ができるようになり

## 目指す姿 学年別

- ①小学1・2年生（タグラグビー）
  - ・人を怖がらず、前に走る、諦めずに両手のタグを取りに行く。
  - ※ラグビーを楽しむ
- ②小学3・4年生
  - ・ゲームをする上での基礎を教える。
  - ・ルールの理解、パス（両手キャッチ）、ランニング（真直ぐ走る）、安全なタックル。
  - ※競技としてのラグビーをする。
- ③小学5・6年生
  - ・ルールの理解、各ポジションの役割を理解して動ける。
  - ・アタック・ディフェンス両面での、立ち位置や動き方の基礎習得。
  - ・ゲーム性を重視し、勝つための戦術を作り上げる。
  - ※より高いスキルを身に付けた競技ラグビーをする。
- ③中学生
  - ・ラグビーに必要なフィットネス・基本スキル・状況判断力の3点をベースとして競技力の向上を目指す。
  - ・次世代を担う子供たちが、ラグビーを通じてより豊かな人間性を築きより良い成長を図る。

## 活動内容

毎週 土曜日or日曜日 9：30～11：30の2時間  
場所 川田公園ラグビー場、トヨタスポーツセンター  
開校 4月の初旬～翌年3月までの1年間  
【小学生・幼児】

他県のスクールとの交歓会を始め、県・市のラグビー祭や県内のスクールとの交歓会を実施。ヒーローズカップ（小学生の全国大会）、ヴェルブリッツカップ（愛知県スクール6年生卒業記念大会）への参加。

【中学生】  
単独チームとして県大会等に出場。メンバーの中には愛知県選抜チームに入り、関西大会や花園で行われる全国大会に出場している。

## 現スタッフ（2021年）

- 校長 横田俊光
- 副校長 竹本 豊
- 事務局 小笠原誠一、山崎弘樹、多久島誠、原田直樹
- セーフティーアシスタント 中田洋一
- 指導員＜中学生＞ 山本剛史、今西 浩、中村大治郎、岩本健一朗、嶋末祥孝

- ＜小学6・5年生＞ 志村知宏、久住辰也、八役大治、横原航太、石橋章匡
- ＜小学4・3年生＞ 末松直人、岡本宗太、久松真人、小松史明、久松大輔、鈴木将史
- ＜小学2・1年生＞ 夏目聖生、寺田 昭、加藤世壺、村瀬良幸
- ＜ 幼 児 ＞ 吉田 周、加藤利美

## 活動の成果と今後の課題

発足当初は生徒数が21名で、紅白戦を組むのがやっとの状態でした。その後、テレビドラマ「スクールウォーズ」の影響でラグビーブームとなり、その人気に乗り参加人数も増加、10周年当時（昭和62年）は約150名の生徒がいました。しかし、2000年頃から子ども全体の人数が減少し、他の人気競技に移行するなど、ラグビーへ参加する生徒が少なくなって行きました。何となくラグビーへ参加する生徒を増やしたいという願いから、今まで以上にラグビーの魅力子どもたちにアピールしていく必要があると考え、トヨタ自動車ヴェルブリッツにも協力を依頼。練習グラウンドの提供や指導会の実施、トップリーグ公式戦でのエスコートキッズ、ヴェルブリッツ公式戦の応援などラグビーの普及活動が続けてきた結果が実り生徒数が徐々に増加。またラグビーワールドカップでの日本代表の活躍と2019年の日本開催、豊田スタジアムでの試合開催などさらにラグビーの認知度が上がり、生徒数が倍増して嬉しい悲鳴を上げています。今後はこのラグビー人気を維持しつつ、ラグビー競技を誰からも愛され、親しまれ、楽しめる、人気の高いスポーツにするよう努力いたします。また、ラグビースクールとして、ボランティア活動など、社会貢献活動に積極的に取り組み、正しいラグビーフットボールの普及振興に資する広報活動へ継続参加してまいります。

ラグビーの魅力は何と言っても「ノーサイドの精神」です。試合中にどんなに競い合っても、ゲームセットになれば、敵も味方もなくなり、お互いに健闘を称え友情を深める「ノーサイド」という考え方は、イギリスが発祥で紳士のスポーツであるラグビー特有の素晴らしさであると私たち指導員は考えています。いつの時代も子どもたちは都市の「宝」であり、子どもたちが明るくたくましく育つ環境づくりこそ、私たちが一番大切にしなければいけないことです。今後も私たち指導員は、過去を反省し、鋭意・努力を重ね、地域のラグビーがさらに発展するために、頑張っていきます。



豊田スタジアム芝生広場で練習後集合写真

